

グラウンド・ゴルフ

加藤 誓 (ちかい)

金曜日の昼に左肩に激痛が走った。夜間寝る事も出来ず、マッサージ機を少しリクライニングの状態にし、座ったまま朝を待った。土曜日整形外科に行った。レントゲン撮影で肩に石灰化が見られ、それが神経に触り炎症を起こしているとのことで、ステロイドの注射をしてもらった。その後、激痛は和らいだが鈍痛は引かず、座った状態では何とか我慢出来るが、ベッドで横になった状態では痛みが走るため、ソファの背もたれを利用して少し肩を固定した状態で4日間、リビングで夜を過ごした。22時からじっと朝を待つのは何んと長いことか。



ところで、土曜日、日曜日は、雨が降らなければ、小学校運動場で「グラウンド・ゴルフ同好会」の練習がある。それを楽しみに、8時40分頃、20人ほどが集まってくる。

2年間以上続くコロナ禍で「人との交流、会話」が少なくなった中で、グラウンド・ゴルフの存在は私にとって大きなものである。「〇〇さん、今日見えないがどっか悪いのかな?」「お寺さんの用事だそうだ。」「それなら安心した!」など、会員仲間の情報交換の場でもある。

「入った!」「あっ、出た!」とワイワイがやがや1時間30分程プレイを楽しむ。運動量も高齢者には丁度良い。スコア表にその日の成績を記入し、月間毎に集計をして競い合うのである。

その集計業務を今年から私が担当することになった。

クリニックに行った土曜日と、次の日曜日はグラウンド・ゴルフを欠席したが、両日のスコア表は家に届けてもらった。少し痛みが和らいだ水曜日、パソコンに入力しようとスコア表を取り出した。いつもは、間違えないようにだけ注意し事務的に入力しているが、今回欠席したため、誰が出席したかを知りたくじっと眺めてみた。

「凄いね!2つ目のホールインワン!」「え!また入った!」

嬉しくて仕方がない顔と、それを見て少し癩な顔。

打った後、ボールをコントロールしようと身体をねじる人。

もう少し転がれと、足を蹴る人。上手く行くと静かだが、ホールポストを通過したのか「わっ出た!」と飛び上がり

大騒ぎする人。何が起ころうとも変わらず、無表情でプレイする人。

ホールポストの柱に何度もくっ付き「今日は、不運!」としよげる人。

ゲームが終わり、皆が帰って来る。

「今日はホールインワンが2個しかなかった!」と自慢げに指を二本出す。

「入らなかった。ダメだ!」「いくつだったの?」「36!」「え!さすがプロ!」

いつもより成績が悪かったのか、無口でボールとクラブを静かにしまっている人。

人、人、人……。



届けてもらったスコア表から、無口な声や色んな声が聞こえ、又、色んな動作が見えた。

土・日曜日のスコア表をパソコンに入力する作業が終わった。

まだ痛みのある左肩をさすりながら、集計表の空白の私の欄をじっと眺め「早く治れ!」と祈った。